

十勝川中流部市民協働会議_活動記録 (17)

十勝ダム・キノウシ地区 植樹準備会

十勝ダム建設当時（昭和 48 年着工）、この場所はダムの原石採取地として約 6.6 haがあり、その後の放置により今では外来種のオオアワダチソウ群落に覆われている状況です。

この活動は、平成 30 年度「水の日」・「水の週間」上下流交流事業の助成を受けることが出来、「十勝川源流部を考える会」の協力のもと、外来種のオオアワダチソウ群落を樹林に転換することを目的に行います。

今回は、そのための準備会として当該地の植物調査を行った報告をします。

- 日 時：平成 30 年 10 月 13 日（土） 10：00～13：30
 - 参加者：十勝川中流部市民協働会議 8 名
十勝川源流部を考える会 5 名
帯広開発建設部帯広河川事務所 2 名
新得町民 1 名
新得町役場 1 名
 - 場 所：十勝ダム上流部 キノウシ地区
 - 活動内容：植物調査とオオアワダチソウの駆除方法の検討
-



調査対象地_現在の様子

1. 植物種調査



調査前のミーティングの様子



参加者の集合写真

現地の状況は、主にオオアワダチソウ群落、クマザサ群落、オオイタドリ群落で構成され、植物種の調査の結果、24種（うち樹木が3種：オノエヤナギ、オニグルミ、イヌエンジュ）が確認できました。

また、オオアワダチソウ群落の表土の厚さは概ね10～20 cm未満で薄く、その下は礫で硬い状況です。



調査対象地の斜め写真



オオアワダチソウ群落の表土厚（約 10～20 cm）

調査に先立ち、植物の専門家の佐藤氏より植物群落の分け方やオオアワダチソウの特徴等について説明して頂き、その後参加者で植物種の確認を行いました。



作業方法を説明する佐藤氏



赤の囲み線がオオアワダチソウ群落



オオアワダチソウの特徴を説明する佐藤氏



<確認された植物>

オノエヤナギ	オオヨモギ	ウシノケグサ類
オニグルミ	クサヨシ	セイヨウタンポポ
イヌエンジュ	ツルヨシ	フユノハナワラビ
オオアワダチソウ	カモガヤ	シロツメクサ
クマザサ	スゲ SP	メマツヨイクサ
オオイタドリ	アキタブキ	オニウシノケグサ
クサソテツ	ヒゴクサ	キンミズヒキ
エゾノキツネアザミ	オオダイコンソウ	ツルウメドキ

2. 植物種の調査状況写真



参加者による植物種の調査状況



参加者による植物種の調査状況

3. オオアワダチソウの駆除方法の検討

オオアワダチソウの駆除方法については、参加者からの以下のような提案がありました。

- 1) 天地返し
- 2) オオアワダチソウの表土をオオアワダチソウの上に被せる
- 3) クマザサやオオイタダリの群落の表土でオオアワダチソウを窒息させる

この様な意見を参考に、帯広河川事務所と協働で駆除方法の検討を早急に行い、雪が降る前に樹木の種まきを行う予定です。



オオアワダチソウの駆除方法について相談する様子

植物調査の後には、十勝ダム下流部のキャンプ場でヨークシャファームのカレーライス頂きました。とても美味しかったです。



提供されたカレーライス



参加者食事の様子